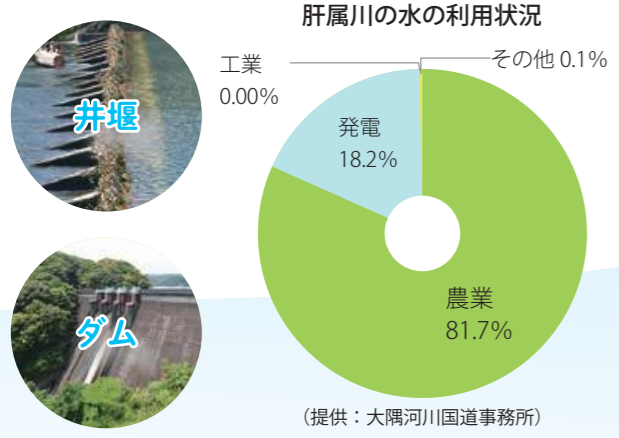




川と暮らす

私たちの住むまちには、一級河川である肝属川をはじめ、様々な川が流れています。まちはこれまで、川の特徴や水の恵みを生かして発展してきました。川は私たちの暮らしの源です。身近な川について学ぶことは、防災に役立つだけでなく、暮らしでの新しい楽しみ方を発見することにもつながります。市内で進められている「かわまちづくり」を紹介します。

写真は、吾平地区を流れる始良川で毎年行われる「稚アユの放流」（昨年実施時の写真）。始良川流域では、住民主体による川の保全活動が進められています。右側に見えるのは、カヌーに親しむ人たちの姿。様々な楽しみ方ができるのも、川の醍醐味です。



貴重な川の水は 農業を支える源に

大隅半島の多くを占めるシラス台地は、水がすぐ浸透し保水力が弱いため、大隅に暮らしていた人々は、深井戸から水をくみ上げるなど、水の確保と利用に苦労していました。

現在では、川に築かれた井堰や畑かん事業のパイプライン整備等によって、川の水は主に農業用水として利用できるようになっています。

市民の暮らしや生活を支える農業は、川の水によって支えられているのです。



どこまで知ってる？ あのか、この川

約200万年前、海底が隆起し高隈山地が現れたことで、肝属川などの源流が誕生しました。その後、川の流れる始良火山の爆発等により大きく変わり、約5千年前に、ほぼ現在の流れへと姿を変えています。

市内の水系を大きく分類すると、国内最南端の一級河川である「肝属川水系」、二級河川では、輝北地区から志布志湾へ流れる「菱田川水系」、花岡地区から鹿児島湾へ流れる「高須川水系」に分けられます。